

地震発生で想定されること（富士山関連）

藤井 敏嗣

噴火につながらない場合

- ・富士山の各地で斜面崩壊の発生により登山道が寸断：大規模地震でほぼ確実に発生
夏季であれば，下山不能者，死傷者の発生
冬季であれば，雪崩の発生も伴う
- ・大沢崩れでの大量崩壊と岩屑なだれ・土石流：頻度不明
- ・富士山斜面の大規模崩壊（山体崩壊）：頻度は1万年に1回程度
岩屑なだれが斜面を流下，方向によっては駿河湾に達し津波発生
被害甚大なるも，発生地点・規模の予想困難

（前回，2900年前に御殿場泥流を引き起こした山体崩壊が，変質した古富士山体の存在の故だとする仮説があるが，この想定が正しければ，北側（小御岳），北東部（新富士期の堆積物が薄い）以外は崩壊を起こす可能性は少ない事になる．この場合，静岡県側の崩壊を想定する必要がないことになる．山体崩壊を想定する場合，山体内の変質帯の把握が必要）

噴火が連続して発生する場合

（地震直後の交通ルートが遮断されている場合と，地震発生後一定期間が経過し，道路等の復旧がある程度行われている場合とで対応は異なるので，その想定も必要）

・発生頻度から想定される噴火規模は2千万 m³ 以下の小規模噴火の確率が高い（90%）が，300年の休止期間を考慮すれば，大規模噴火（1km³程度）の爆発的噴火も想定する必要がある（最近200年間の世界の大規模爆発的噴火（>1km³）は15例あり，そのうち11例は数百年の休止期間後の噴火）．

・富士山ハザードマップでは0.7km³程度の溶岩流出あるいは宝永噴火のようにスコリア・火山灰噴出が2週間にわたって継続する場合が想定されているが，それ以外の噴火様式の可能性もある．

・宝永噴火と異なり，プリニー式噴火は数日程度でおさまるが，引き続いて，噴煙柱崩壊型の火砕流発生，溶岩流出へと推移（宝永噴火は噴煙柱を15kmの高さまで噴き上げる噴火がほぼ2週間にわたって継続したとする推定があるが，これは準プリニー式ないし，プリニー式噴火としては異例，通常のクライマックスは数時間からせいぜい数日）．

- ・噴火発生地点が複数，同時多発，山頂噴火の可能性も
- ・水蒸気爆発とそれに引き続く山体崩壊（磐梯，雲仙）